

『転がるかな?』 3歳児 2月 伏見こども園

子どもの姿

前日、築山の上から丸いお風呂の椅子を転がして遊んでいた数人の子ども達が、築山にフープやお風呂の椅子を持って登っていました。

「いくよ」「せえの!」と一斉に転がします。「めっちゃ転がるなあ」「先生、見てて。転がるよ!」「僕のはあっちに行っちゃったあ」「ああ、倒れちゃったあ」と自分や友達の転がしたフープの行方を見て嬉しそうに話しています。保育者が「わあ!すごい!いっぱい転がってきたね」と驚いていると、子ども達は、「もう一回しよう」と築山の上から降りてきて自分のフープを取りに行ったらは何度も転がして遊びました。

保育者の思い

前日の遊びの振り返りをした時に、お風呂の椅子を転がして遊んだことを共有したことを思い出し、思いついたものや転がりそうなものを持って遊んでほしい。

友達と声やタイミングを合わせたり、比べたりして遊ぶ楽しさを味わってほしい。

友達と同じことをして遊ぶ中で、転がり方の違いに気付いたり、もっと転がしてみたいと思ったりして一緒に遊んでほしい。



子どもの育ちや学び

これまでの経験から、斜面をものが転がることを知っている子どもたちは、築山の斜面でも転がしてみようと目についたお風呂の椅子やフープなど、転がりそうなものを運んできて転がしていました。

同じタイミングで転がしたいという思いで、声を合わせたり、友達の声を聞いたりして転がしていました。友達と一緒にタイミングを合わせようとすることや、タイミングが合った時の嬉しさを感じています。

いろいろなものを転がして、感じたことを言葉にし、次はどうか?と結果を楽しみにし繰り返し遊んでいました。

家庭だったら

子ども達は、時々、大人が思いつきもしないことをして驚かせてくれます。危険な行為でなければ、どうなるのか、どうするのか見守ってはいかがでしょうか。一緒にやってみたりすることをお勧めします。子ども達は、上手いことでも、そのことを面白がったり、上手い方法を考えて、大人が支えることで安心してやってみようとしています。